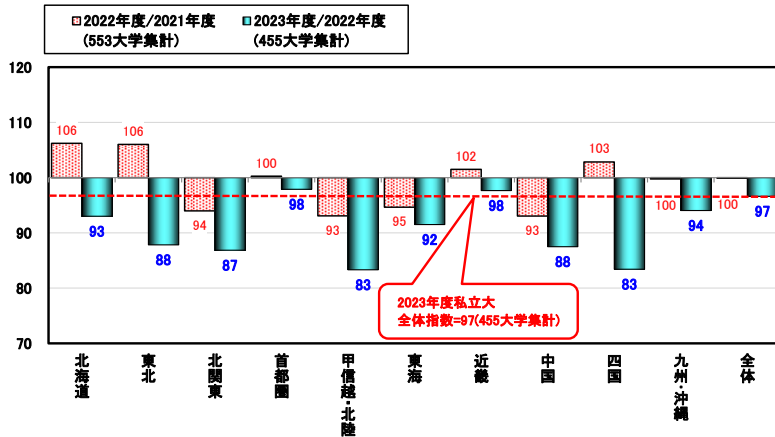


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎地区別志願状況・合格状況

□志願者数は全地区で減少、特に甲信越・北陸、四国で大幅減少

〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



大学の所在地別の志願状況では、全地区で減少し、私立大全体指数(97)をわずかですが上回ったのは志願者数の多い首都圏(98)、近畿(98)の2地区でした。

甲信越・北陸(83)、四国(83)は大幅減少、北関東(87)、東北(88)、中国(88)、東海(92)は減少、北海道(93)、九州・沖縄(94)はやや減少でした。

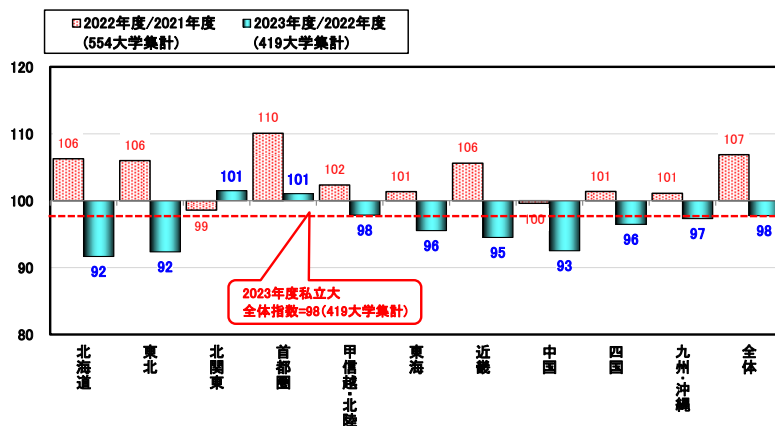
募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏の動向について見てい

きます。首都圏(98)、近畿(98)はいずれもわずかですが私立大全体指数を上回っていますが、東海(92)は連続減少です。現時点で志願者数が確定した募集単位での集計では常葉大、愛知大、南山大、名城大といった大規模総合大学での減少が目立っており、これが地区全体の減少に繋がっています。コロナ禍の影響の緩和により、首都圏や関西圏への交通の利便が良い地区だけに、成績上位層のこれらの地区への流出がコロナ禍以前の状況に戻りつつあることがうかがえます。

前年度は、北海道、東北、四国といった地方ではコロナ禍の影響による遠距離移動回避による地元志向が高まりましたが、コロナ禍の影響緩和により首都圏や近畿圏への受験生の流れが戻りつつあることがわかります。さらに、地方では入学生確保のために「年内入試」へのシフトがより顕著なために、次年度以降も一般選抜の志願者数が前年度を上回ることにはほぼないと思われます。

□合格者数は北関東、首都圏を除き減少

〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

地区別の合格状況では、北関東(101)、首都圏(101)は前年度をわずかながら上回り、甲信越・北陸(98)が全体指数と同じでした。その他の地区では全体指数を下回り、特に、北海道(92)、東北(92)、中国(93)では志願者減少も大きく一般選抜での合格者数確保に苦労している様子

うかがえます。

系統別と同じように、「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、10地区中8地区で競争緩和しており、特に北関東〔+15〕、甲信越・北陸〔+15〕、四国〔+13〕で大きく競争緩和しています。一方で、近畿〔-3〕はやや減少、北海道〔-1〕はわずかですが競争激化が見られます。